

# 医薬原薬・中間体

## ビジネストレンドを読む

③

医薬品原料商社や化学品商社は、医薬原体（API）ビジネスを相次いで強化、後発薬（ジェネリック）分野を中心に投資を活発化している。ジェネリック製剤の使用促進政策の推進を背景に、海外APIメーカーとの提携をはじめ品質管理体制の強化、メーカー機能の拡充などに取り組む。

「低価格・高品質・安定供給」をキーワードに、研究製造業務受託サービス（CRAMS）、輸出や三国間貿易など事業領域を広げながら存在感を高めた。コア競争は激化し、グローバルな量産品でないとなら

厚生労働省が推進するア

## 専門商社が積極投資



専門商社は流通機能に加えてメーカー機能の強化に動いている（岩城製薬の工場）

インド・ファーマと販売提携したほか、三洋貿易は米国アセトと提携し市場開拓を推進中だ。

……

保持契約）を締結しマーケティングを開始。ジェネリック新薬向けのほか、複数購買化をにらんだ第2、第3ソースや先発薬API

「ジェネリック新薬向けのほか、複数購買化をにらんだ第2、第3ソースや先発薬API

をにらんだ第2、第3ソースや先発薬API

打ちできない」と輸入APIの必要性を説く。こうしたことから、インド有力メーカー2社とNDA（秘密

切り替え案件など視野に攻勢をかける」として年間6品目以上を狙う。エア・ブルーはインドのオーロピ

乗りを上げている。

### メーカー機能強化

カネダは都内に建設した品質管理棟を活用し、抗がん剤など高薬理活性原薬を主眼に差別化戦略を展開。医薬中間体や受託製造など実績を積み上げる長瀬産業、中国展開に強みを有するハイケム、伊子会社のプロコス足を掛かりとするCBCなどもそれぞれの特徴を生かしてビジネス展開する。総合商社ではグローバルネットワークを強みに、双日や住商ファーマインタナショナル、伊藤忠ケミカルフロンティアなどが名

販両面で展開するのはイワキ。岩城製薬が持つ技術を活用、国内ジェネリックメーカーにAPI販売を手掛ける。インドのクレンマク・ジェネリックと提携し、品揃えを大幅に拡充した。三谷産業は日医工と合併（アクティブファーマ）を設立し今期中に相模化成・町田事業所と富士工場に次いで富士市八尾町に第3拠点を新設する。ダイトは富士市八日町の本社工場第5原薬棟の増設（量産3ライン）が完了した。

### 品質管理が重要に

コーア商事は包装工場を建設中のほか、注射薬や一般薬（OTC）メーカーとの資本提携を強化。グルーブ一体化運営を推進し、APIから製剤輸入、剤形変更や包装まで多様なニーズに対応できる体制構築を急ぐ。

輸入APIビジネスでは品質管理・品質保証体制の拡充が急務となっている。昨年、韓国APIメーカー2社がGMP不適合の事態となり、国内製薬メーカーは販売停止に追い込まれた。これを機に、輸入APIを扱う専門商社各社では

査察スタッフの増員など査察体制の見直し・拡充に着手しており、品質管理面でもその役割は重要性を増している。

# 海外API狙い業務拡大